

小城市まち・ひと・しごと創生総合戦略



~~平成28年11月改訂版~~
平成30年1月改訂版
小城市

第3章 基本目標ごとの施策の方向

I 「しごとができる小城づくり」～安心して働けるようにする～

○数値目標 一人当たり市民税 H26：92千円⇒H31：93千円

1. 地域経済の育成・支援

概要目的	地域産業の振興により地域活性化を促進し、経済を拡大させ、新しいしごとをつくるための起業、イノベーションの推進から事業承継などの支援を行う。		
強化する施策・基本的な取り組み	重要業績評価指標 (KPI)	H26 基準数値	H31 目標数値
(1) 地場産業の育成・支援			
経営者のスキルアップを図り、経営の安定化につなげ、地場産業の振興と活性化に向け支援する。	・※3 製造品出荷額	2,699千万円 ／年間 2,987千万円 ／年間 (H24)	2,880千万円 ／年間 2,800千万円 ／年間 (H29)
(2) 新たな雇用創出			
起業をめざす人への支援やテレワーク等新たな雇用形態を導入する事業所に対し支援する。	・空き店舗補助総件数 (累積)	-	5件
(3) 地域の特産品の販路拡大			
中小企業の経営基盤の安定のために地域の特産品の出荷額の増加や販路拡大を支援する。	・プライベートブランド の総数 (累積)	-	10件
(4) モノづくり人材等の確保・流出防止			
佐賀大学等、地元企業、地域の公設試験研究機関が連携した共同研究等を通じ、学生が地元企業との活動に積極的に参加する仕組みを作ることで、学生の地元企業への就職意欲を喚起し、地元定着を促す支援を行う。	・ 県内の※3-COC+申請大学に進学した者の内、県内に就職した若者の割合 ・大学等との連携事業数 (累積)	26% 17 (H28)	36% 26

※3 ~~県内のCOC+申請大学とは、国立大学法人佐賀大学、学校法人佐賀女子短期大学、学校法人九州龍谷短期大学、学校法人西九州大学のこと。~~
製造品出荷額は、第2次小城市総合計画の参考値と整合を図り、総合戦略では毎年進捗状況を把握するために、2年遅れであるが直近で把握できる数値（H26基準数値はH24年の数値、H31目標数値はH29年の数値）を設定している。

I 「しごとができる小城づくり」～安心して働けるようにする～

2. 小城市の特色を生かした農水産業の振興

2. 小城市の特色を生かした農水産業の振興			
概要 目的	安心して農業・水産業を続けられるために経営基盤の安定と、小城市の特性に応じた農水産物の高品質化をめざし、安定した収入を得られる産業になるよう育成・支援する。		
強化する施策・基本的な取り組み	重要業績評価指標 (KPI)	H26 基準数値	H31 目標数値
(1) 経営の安定化と担い手育成支援			
地域営農の担い手として、経営の安定化を目指し、組織の法人化を支援する。	・集落営農組合の法人化総数（累積）	0組合	10組合
(2) 有明海の漁場の保全及び生産基盤の充実			
環境保全の取組みを推進するとともに、漁業生産基盤の充実を支援する。	→ 漁業出荷額 ・1漁家あたりの漁業出荷額	1,717,000 千円/年間 22,418千円 /年間	1,760,000 千円/年間 24,916千円 /年間
(3) 特産品開発・組織の育成			
起業支援を推進しながら6次産業化を加速させ、農商工学連携等による商品開発取組を行う組織へ支援する。	・新たに6次産業等で支援した農水産品の総数（累積）	4品	10品

II 「ひとを呼ぶ小城づくり」～新しい人の流れをつくる～

○数値目標 人口の社会減(転出超過)の縮小 ~~—H25: △88人⇒H31: △58人~~
 H26: △151人 (H25) ⇒H31: △106人 (H30)

1. 交流人口の増加を目指して

概要目的		H26 基準数値	H31 目標数値
	「小城市を知ってもらうための」「小城市に来てもらうための」しかけづくりを行い、交流人口の増加を図る。佐賀県や近隣自治体と連携し、入り込みの間口を広げた取り組みを行う。		
強化する施策・基本的な取り組み	重要業績評価指標 (KPI)	H26 基準数値	H31 目標数値
(1) 地域資源・歴史資源の活用			
小城市の自然・歴史・文化・観光等の資源を活用するとともに、新たな地域資源の掘り起こしを行い、域内への来訪者と滞在時間の増加を図る。	<p>→小城市で2時間以上滞在する人の数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の歴史・文化資源の数(累積) 130件 135件 140件 ・歴史的建造物を活用した起業相談者総数(累積) 0件 5件 30件 ・歴史的建造物を活用した事例総件数 3件 5件 10件 	88,750人 /日	97,625人 /日
(2) 道路網を生かした新たな交流人口の拡大			
有明沿岸道路やH29年度開通予定のスマートインターチェンジなど、佐賀県の主要道路が小城市を通過する強みを生かし、さらなる交流人口の拡大を図る。	・スマートインターチェンジの利用車数	-	1,300台/日
(3) 小城市の特色を活かしたPR活動の推進			
小城市のイメージアップのためのメディア総合戦略に取り組み、広く市内外に情報発信を行う。市民が「自慢できるまち」「市外から訪れたいまち」と認識されることにより、交流人口の増加に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット番組によるユーチューブの総再生回数(累積) 87,000回 1,000,000回 ・※4 観光客数 46.0万人 /年間 46.2万人 /年間 45.0万人 /年間 45.8万人 /年間 (H25) (H30) 		

※4 観光客数は、第2次小城市総合計画の目標値と整合を図り、総合戦略では毎年進捗状況を把握するために、1年遅れであるが直近で把握できる数値(H26基準数値はH25年の数値、H31目標数値はH30年の数値)を設定している。

II 「ひとを呼ぶ小城づくり」～新しい人の流れをつくる～

2. 「学生や若者・子育て世代が住む」魅力的で活力ある小城市

概要 目的	「天山から有明海」に至る自然景観と蓄積された歴史・文化を織り交ぜて形成された地域資源を最大限に活用して特色のある住みよいまちづくりを進め、学生や若者、子育て世代に魅力ある定住施策に取り組む。		
強化する施策・基本的な取り組み	重要業績評価指標（KPI）	H26 基準数値	H31 目標数値
(1) 移住・定住希望者に対する相談窓口機能の強化			
市内への移住・定住希望者に対し、必要な情報を広く発信するなど移住・定住を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者支援窓口の利用相談総件数(累積) ・移住・定住支援総件数(累積) ・西九州大学進学者の定住相談臨時窓口の利用相談総件数(累積) 	—	40件
		—	320件
		—	100件
(2) 学生の定住促進			
西九州大学小城キャンパスの開学に伴う大学進学者の定住を促進する。	・西九州大学小城キャンパス進学者のうち市内への居住者総数(累積)	—	100人
(3) 若者・子育て世代等の定住促進			
小城市に「住みたい」「住み続けたい」そして「住んで良かった」と思ってもらうために、「進学期」「就職期」「結婚期」「子育て期」のライフステージに応じた移住・定住の促進に努める。	・50歳以下の転入数	1,182人／年間	1,160人／年間
(4) 空き家等や公的不動産等の既存ストックの活用等			
増加傾向にある市内空き家等の既存住宅ストックを活用し、定住を促進する。また、市等が保有する公的不動産等を活用し、民間等と連携した若者・子育て世代支援住宅等の整備を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクの登録総件数(累積) ・空き家バンク成約総件数(累積) 	3	40件
		—	20件